

個別事業(取組)評価				
事業No.	26	施策の柱への位置付け	柱④ 心の教育改革	
事業名称	<b>教育相談体制の充実</b> スクールカウンセラー活用事業 心の教育アドバイザー活用事業 子どもと親の相談員活用事業 スクールソーシャルワーカー活用事業		担当課	人権教育課
			当初予算額(千円)	167,755
			補正後予算額(千円)	162,200
			決算額(千円)	156,234

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	<b>【現状】</b> ◆ 課題や悩み・不安を抱えていながら、誰にも打ち明けられない児童生徒がいる。また、児童生徒自身の課題や家庭生活の問題に起因して、不登校、いじめ等の問題行動に至るケースが多く発生している。 ※ H21年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査 不登校(公立小中学校):12.8人/1,000人 いじめ(公立小中高特別支援学校):2.6件/1,000人 暴力行為(公立小中高):8.2件/1,000人 ◆ 悩みや不安を抱く児童生徒、問題行動を繰り返す児童生徒の保護者も不安な状況にある。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> 各市町村教育委員会、学校等からの情報収集、スクールカウンセラー等の勤務状況報告等により、児童生徒の状況について把握できている。 ※ H22児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査 不登校(公立小中学校):13.3人/1,000人 いじめ(公立小中高特別支援学校):5.1件/1,000人 暴力行為(公立小中高):8.6件/1,000人
		<b>【要因】</b> 児童生徒の悩みや不安、ストレス、問題行動の背景に、家庭での親子関係や児童生徒の居場所の問題、学校生活での学業面や人間関係をめぐる問題等がある。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> 児童生徒が抱える悩みや不安、問題行動等は、さまざまな要因が複合するため、特定することは困難である。
②	目標(Outcome)	◆ 個々のスクールカウンセラー、心の教育アドバイザー、スクールソーシャルワーカー等の対応力の強化を図り、県全体の公立小中高特別支援学校の生徒指導上の諸問題の改善につなげる。 ・小中学校不登校児童生徒数を600人台に減少させる。 ・小中高特別支援学校いじめ認知件数を400件台に増加する。(H22:364件) ※「大人の気付いていないところで、さまざまないじめが発生している」との認識のもと、教職員によるいじめ認知件数を上げ、早期に適切に対応することが重要と考える。 ・小中高校暴力行為の発生件数が550件を下回る。(H22:607件) ・高校中途退学率を1.7%に下げる。(H22:1.8%) ◆ スクールカウンセラー等と学校との連携を強化し、スクールカウンセラー等による相談件数、対応件数及び改善件数等の増加を図る。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> 設定した目標数値は妥当と判断する。
		◆ 問題行動・長期欠席(不登校等)に関する調査(高知県方式) ◆ 中途退学に関する調査 ◆ スクールカウンセラー、心の教育アドバイザー、子どもと親の相談員、スクールソーシャルワーカーの勤務状況報告や聞き取り ◆ スーパーバイザーからの聞き取り ◆ 管理職の評価(試行的実施)	<b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ◆ 各学校の管理職のSCに対する評価も概ね高く、また、SC・SSW合同研修会における効果的な取組の共有等を通じて、SC、SSW等の対応力の強化及び学校との連携は、着実に推進されている。 ◆ 生徒指導上の諸問題については、目標達成が厳しい状況にあると推測される。 ・小中学校不登校児童生徒数:731人(H22)→726人(H23) <H23の数値は、問題行動・長期欠席(不登校等)に関する調査(高知県方式)の集計結果(速報値)より> ※いじめ、暴力行為、中途退学については、8月に公表予定である。 ◆ スクールカウンセラー等の相談・対応件数等 ・スクールカウンセラー:24,076件(H22)→27,946件(H23) ※H23年度、支援会議参加(656回)、研修会の講師(83回) ・心の教育アドバイザー:3,687件(H22)→3,578件(H23) ※H23年度、支援会議参加(220回)、研修会の講師(14回) ・子どもと親の相談員:6,250件(H22)→4,692件(H23) ・スクールソーシャルワーカー:1,006件(H22)→1,095件(H23) ※H23年度(1,095件)のうち、解決件数89件、好転件数252件
③	実施内容(Input・Output)	◆ スクールカウンセラー及び心の教育アドバイザー(以下「SC等」)の専門性の向上及び学校(教職員)との連携強化 ・SC等連絡協議会 ・SC等研修講座(年6回) ・配置校におけるSC等の校内支援会議への参加及び助言の推進 ・配置校の管理職に対するSC等に関するアンケートの実施 ◆ スクールソーシャルワーカー(以下「SSW」)の専門性及び対応力の向上 ・SSW連絡協議会 ・SSWブロック別協議会(ブロック別 年2回) ◆ 学校(教職員)とSC等及びSSWの連携強化 ・SC・SSW合同研修会	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ◆ 計画通り実施できた。 ・SC等連絡協議会(5/12) 247人参加 ・SC等研修講座(6/26、7/10、8/28、10/23、11/13、1/22) 延べ304人参加 ・SC・SSW合同研修会(6/9) 104人参加 ・配置校におけるSC等の校内支援会議への参加状況 延べ876回参加 ・SSW第1回ブロック別協議会(9/6,8,9) 延べ43人参加 ・SSW第2回ブロック別協議会(11/4,11,25) 延べ44人参加 ・SSW連絡協議会(1/17) 45人参加 ・SC等に関するアンケートの実施(3月) <<配置状況(参考)>> ◇ スクールカウンセラー(公立小中高特別支援学校) 137校(H22)→174校(H23)※特別支援学校はH23より配置 ◇ 心の教育アドバイザー(公立高校) 21校(H22)→23校(H23) ◇ 子どもと親の相談員(公立小学校) 19校(H22)→19校(H23) ◇ スクールソーシャルワーカー 18市町村29人(H22)→19市町村32人(H23)
		<b>【総合評価】</b> ◆ SC等の専門性、SSWの対応力及び学校を含めた連携強化は着実に進んでおり、悩みや不安を抱える児童生徒や保護者等への支援が充実した。 ◆ 生徒指導上の諸問題のさらなる改善をつなげるため、今後も教育相談体制の充実を進める必要がある。	<b>【今後の方向】</b> ◆ SC等の評価制の導入等により、さらなる専門性の向上や学校との連携強化を図る。 ◆ 県内全市町村にSC等を配置するための人材の発掘及び確保を進める。 ◆ SSWの配置市町村の拡充及び県立中学校への支援を行う。
総合評価と今後の方向		目標達成度 <b>C</b> 「No」を選択した項目 <b>イ、エ</b>	